

第1号議案 平成21年度事業報告および計算書類承認について

事業報告

1. 平成21年度優秀業績の表彰

平成21年度優秀業績については慎重に検討された結果、

渡辺 彰氏（東北大学 加齢医学研究所 抗感染症薬開発研究部門）他1名

「Diagnosis and treatment of Q fever: attempts to clarify current problems in Japan」

(Journal of Infection and Chemotherapy Vol. 14, No. 1, p1-7)

以上、1件に二木賞が授与されることとなった。

関 雅文氏（長崎大学大学院医歯薬学総合研究科感染免疫学講座（第二内科））他7名

「Critical Role of IRAK-M Receptor-Associated Kinase-M in Regulating Chemokine-Dependent Deleterious

Inflammation in Murine Influenza Pneumonia」 (The Journal of Immunology, Vol. 184, No. 3, p1410-8, 2010)

上記の研究業績に対して日本感染症学会北里柴三郎記念学術奨励賞が授与されることとなった。

2. 講演会

平成21年4月23日、24日、東京都・京王プラザホテルにおいて第83回学術講演会を後藤元会長のもとに開催した。

a	会員の業績研究発表		505題
b	会長講演		1題
	呼吸器感染症分離菌の感受性推移—呼吸器感染症分離菌感受性調査研究会・1万症例の成績から—	司会：東京女子医科大学感染対策部感染症科 戸塚 恭一 杏林大学医学部第一内科学 後藤 元	1題
c	特別講演		1題
	感染症専門医制度の目指す方向性を考える	司会：北里大学北里生命科学研究所感染症学 砂川 慶介 東京通信病院 木村 哲	1題
d	招請講演		5題
	1 我が国における医学教育の今、そして未来—臨床研修事業に参加する意義—	司会：福井大学医学部内科学I 上田 孝典 群星沖繩臨床研修センター 宮城征四郎	
	2 ウイルス・細菌感染症に対する網羅的な迅速診断法の最前線	司会：東邦大学医学部微生物・感染症学 山口 恵三 北里大学大学院感染制御科学府・北里生命科学研究所病原微生物分子疫学研究室 生方 公子	
	3 細胞内寄生性細菌の寄生戦略と宿主応答	司会：島根大学医学部微生物免疫学 富岡 治明 京都大学大学院医学研究科微生物感染症学 光山 正雄	
	4 How to Use Education to Improve Quality of Care for Pneumonia?	司会：長崎大学大学院医歯薬学総合研究科感染免疫学 河野 茂 State University of New York at Stony Brook Michael S. Niederman	
	5 Surviving Sepsis Campaign Guidelines 2008と新規治療法の展開	司会：京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻 笹田 昌孝 慶應義塾大学医学部救急医学 相川 直樹	
e	教育講演		9題
	1 好中球からみたセプシス	司会：大阪大学微生物病研究所感染症国際研究センター 大石 和徳 帝京大学医学部微生物学 斧 康雄	
	2 マクロファージからみた感染症：ヒト単球由来マクロファージの多様性と感染感受性	司会：大分大学医学部総合内科学第二講座 門田 淳一 北里大学北里生命科学研究所・国立感染症研究所 赤川 清子	
	3 真菌感染症と宿主免疫機構	司会：昭和大学医学部臨床感染症学 二木 芳人 東北大学大学院医学系研究科保健学専攻感染分子病態解析学分野 川上 和義	
	4 HIV感染症におけるtailor-made治療はどこまでできたか？	司会：東京大学医科学研究所先端医療研究センター感染症分野 岩本 愛吉 国立国際医療センターエイズ治療・研究開発センター 潟永 博之	
	5 感染症の動向 2008-2009	司会：東北大学加齢医学研究所抗感染症薬開発研究部門 渡辺 彰 国立感染症研究所感染症情報センター 岡部 信彦	
	6 ニューモシスチス肺炎の病態・診断・治療—HIV vs. non-HIV—	司会：琉球大学大学院医学研究科感染病態制御学講座分子病態感染症学分野 藤田 次郎 社会保険中央総合病院呼吸器内科 徳田 均	
	7 進化する細菌—市中感染型MRSA—	司会：杏林大学医学部感染症学 神谷 茂 新潟大学大学院医歯学総合研究科国際感染医学講座細菌学分野 山本 達男	
	8 感染症に対する分子疫学的アプローチ	司会：京都大学大学院医学研究科臨床病態解析学 一山 智 久留米大学医学部感染医学講座臨床感染医学部門 渡邊 浩	

9	目で見る感染症・・・一般内科医の立場から	司会：長崎大学大学院医歯薬学総合研究科保健学専攻 大船中央病院内科	田代 隆良 須藤 博 2題
f	シンポジウム		
1	いま、我が国の大学・病院では感染症をどのように教育しているか—その現状と課題— 座長：東北大学大学院医学系研究科内科病態学講座感染制御・検査診断学 奈良県立医科大学感染症センター	賀来 満夫 三笠 桂一	
1)	長崎大学病院では—リサーチ・マインドをもった感染症専門医の育成— 長崎大学医学部・歯学部附属病院検査部・第二内科	柳原 克紀	
2)	佐賀大学病院では—基本的臨床力の向上を可能にする感染症診療・教育の開拓— 佐賀大学医学部附属病院感染制御部	青木 洋介	
3)	奈良県立医科大学病院では—感染症診療における「人財」育成のために～大学医局ができること～ 奈良県立医科大学感染症センター	笠原 敬 味澤 篤	
4)	東京都立駒込病院では 東京都立駒込病院感染症科		
5)	聖路加国際病院では—聖路加国際病院感染症科の実践する抗菌薬適正使用への臨床教育— 聖路加国際病院内科感染症科	古川 恵一 前崎 繁文 館田 一博	
2	感染症をどのように学ぶか。—若手へのsuggestion— 座長：埼玉医科大学感染症科・感染制御科 東邦大学医学部微生物・感染症学		
1)	WHOでの経験を含めて—感染症コントロールの国際舞台で働くために— 東北大学大学院医学系研究科微生物学分野	押谷 仁	
2)	アメリカでの経験を含めて—私の米国での感染症科研修— 自治医科大学附属病院臨床感染症センター感染症科	矢野 晴美	
3)	イギリスでの経験を含めて—英国文化に学んだ日本の医学の根幹部分— 順天堂大学大学院医学研究科感染制御科学	堀 賢	
4)	ドイツでの経験を含めて—なぜ感染症を学ぶのか～ドイツ・イギリス・アメリカでの経験を踏まえて～ Channing Laboratory, Brigham and Women's Hospital, Harvard Medical School	吉田 敦	
5)	開発途上国での経験を含めて—熱帯地（開発途上国）で感染症を学ぶ～アフリカ・アジアの経験から～ 長崎大学熱帯医学研究所感染症予防治療分野	有吉 紅也 5題	
g	感染症講座		
1	輸入感染症シリーズ 座長：慶應義塾大学医学部内科学 獨協医科大学越谷病院臨床検査部	増田 剛太 春木 宏介	
1)	コレラ 東京都立駒込病院感染症科	菅沼 明彦	
2)	腸チフス・パラチフス 横浜市立市民病院感染症内科	相楽 裕子	
3)	マラリア 結核予防会新山手病院内科	木村 幹男	
4)	デング熱 国立国際医療センター戸山病院国際疾病センター	加藤 康幸	
2	各科感染症シリーズ 座長：国立病院機構東京医療センター小児科 東邦大学医療センター大森病院外科第三講座肺がんセンター・呼吸器診療部	岩田 敏 草地 信也	
1)	小児科領域感染症—小児感染症の診断と治療のポイント— 千葉大学大学院医学研究院小児病態学	石和田稔彦	
2)	外科領域感染症 兵庫医科大学感染制御学	竹末 芳生	
3)	泌尿器科領域感染症—感染症専門医に必要な泌尿器科領域感染症— 東京慈恵会医科大学附属青戸病院泌尿器科	清田 浩	
4)	耳鼻咽喉科領域感染症 藤田保健衛生大学坂文種報徳會病院耳鼻咽喉科	鈴木 賢二	
3	感染症関連ガイドラインシリーズ 座長：国立国際医療センターエイズ治療・研究開発センター	岡 慎一	
1)	細菌性髄膜炎の今日の治療—診療ガイドラインから— 石心会狭山病院呼吸器内科	青島 正大	
2)	嫌気性菌感染症診断・治療ガイドライン 東京都立駒込病院脳神経内科	岸田 修二	
3)	我が国の深在性真菌症ガイドラインの特徴と課題 愛知医科大学大学院医学研究科感染制御学	三嶋 廣繁	
4)	性感染症ガイドライン 国立感染症研究所生物活性物質部（真菌症担当部）	宮崎 義継	
4	この症例の診断をどのように進めてゆくか 座長：宮崎大学内科学講座免疫感染病態学 サクラ精機株式会社	松本 哲朗 岡山 昭彦 青木 眞	
5	グラム染色道場 座長：高根病院 西神戸医療センター臨床検査技術部	菅野 治重 山本 剛	
h	感染症update		18題
1	麻疹—麻疹に伴う肺傷害とその制御— 司会：国立感染症研究所感染症情報センター	多屋 馨子	
2	ヒトパピローマウイルス感染症—我が国におけるHPV感染と子宮頸癌— 杏林大学医学部総合医療学 司会：長野赤十字病院	小林 治 菅生 元康	
3	敗血症性肺塞栓症 筑波大学人間総合科学研究科 司会：杏林大学医学部附属病院感染症科	松本 光司 河合 伸	
4	チクングニア熱 東京女子医科大学東医療センター内科 司会：国立感染症研究所感染症情報センター	武田 英紀 谷口 清州	
5	狂犬病—横浜の一例— 在ベトナム日本国大使館・国立国際医療センター国際疾病センター 司会：東京都立駒込病院小児科	水野 泰孝 高山 直秀	
6	HHV-6感染症—薬剤性過敏症候群を中心として— 横浜市立市民病院感染症内科 司会：帝京大学医学部内科学講座（感染症）	倉井 華子 西谷 肇	
7	インフルエンザ脳症 愛媛大学大学院医学系研究科生体統御内科学 司会：神戸市立医療センター中央市民病院小児科・感染症科	安川 正貴 春田 恒和	
8	鳥インフルエンザ 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科小児医科学 司会：とやの中央病院内科	森島 恒雄 和田 光一	
		国立国際医療センター国際疾病センター	工藤宏一郎

9	Q熱	司会：川崎医科大学呼吸器内科学 坂総合病院呼吸器科	宮下 修行 高橋 洋
10	マクロライド耐性マイコプラズマ肺炎—薬剤耐性マイコプラズマのミクロからマクロまで—	司会：川崎医科大学小児科学 札幌鉄道病院小児科	尾内 一信 成田 光生
11	多剤耐性緑膿菌感染症	司会：東邦大学医学部看護学科感染制御学 東北大学大学院内科病態学講座感染制御・検査診断学分野	辻 明良 平潟 洋一
12	百日咳	司会：信楽園病院内科 国立病院機構福岡病院小児科	青木 信樹 岡田 賢司
13	パチルス・セレウス感染症—となりの <i>Bacillus cereus</i> —	司会：東京都老人医療センター研究検査科 自治医科大学附属病院感染制御部	稲松 孝思 森澤 雄司
14	ステノトロフォモナス・マルトフィリア感染症	司会：虎ノ門病院中央検査部 国立がんセンター中央病院臨床検査部細菌免疫検査室	米山 彰子 森 慎一郎
15	ビブリオ・バルニフィカス感染症—ビブリオ・バルニフィカス感染症の臨床と日本における疫学—	司会：慶應義塾大学医学部附属病院中央臨床検査部 佐賀大学医学部麻酔・蘇生学・佐賀大学有明海総合研究プロジェクト	小林 芳夫 松本 浩一
16	メリオイドーシス	司会：東京都立墨東病院感染症科 東京通信病院呼吸器科	大西 健児 渋谷 英樹
17	深在性トリコスポロン症	司会：順天堂大学医学部内科（血液学） 大分大学医学部総合内科学第二講座	森 健 時松 一成
18	ヒトボカウイルス感染症	司会：総合太田病院小児科 北海道大学病院感染制御部	佐藤 吉壮 石黒 信久
i	ランチョンセミナー		15題
1	Surviving Sepsis Campaign Guidelines 2008に基づく抗菌化学療法	司会：慶應義塾大学医学部救急医学 東北大学大学院医学系研究科外科病態学講座救急医学分野	相川 直樹 田熊 清継
2	『HIV診療の現状と課題』ここで学ぼう！ わかりやすい抗HIV薬の基本と応用	司会：東京医科大学臨床検査医学講座 がん・感染症センター都立駒込病院感染症科	福武 勝幸 今村 顕史
3	非結核性抗酸菌症に対する治療戦略	司会：島根大学医学部微生物・免疫学 結核予防会複十字病院	富岡 治明 倉島 篤行
4	呼吸器感染症における耐性菌の現状と対策	司会：小田切呼吸器科クリニック 横浜市立大学附属病院呼吸器内科	小田切繁樹 綿貫 祐司
5	COPDの病態と治療 —呼吸器感染症の視点から—	司会：昭和大学医学部感染症学講座 帝京大学医学部附属溝口病院第四内科	二木 芳人 滝澤 始
6	画像所見からのアプローチ ～感染性/非感染性疾患の鑑別を中心に～『胸部X線写真にて広範な陰影を見たら、どうする？』	司会：埼玉医科大学医学部呼吸器内科学 神奈川循環器呼吸器病センター	金澤 實 小倉 高志
7	急性肺障害の診断と治療	司会：琉球大学医学部感染病態制御学講座（第一内科） 公立陶生病院呼吸器・アレルギー内科	藤田 次郎 近藤 康博
8	感染症治療におけるPK-PD理論は机上の空論か？	司会：東京女子医科大学感染対策部感染症科 愛知医科大学大学院医学研究科感染制御学	戸塚 恭一 三嶋 廣繁
9	インタラクティブケースカンファレンスで考える“院内肺炎の診断と治療”	司会：信楽園病院呼吸器内科 静岡県立静岡がんセンター感染症科	青木 信樹 大曲 貴夫
10	DPC時代のICUにおける感染対策	司会：東京大学医学部附属病院感染制御部	森屋 恭爾
1)	救急医からみたICUにおける感染対策 —鎮静剤プロポフォールを中心に—	山口大学医学部附属病院先進救急医療センター	鶴田 良介
2)	DPCから見たICUにおける院内感染の経済的影響	名古屋大学大学院医学系研究科救急・集中治療医学	小野寺睦雄
11	新型インフルエンザ	司会：国立病院機構九州医療センター 東北大学大学院医学系研究科微生物分野	柏木征三郎 押谷 仁
12	真菌感染症の治療に必要な診断	司会：千葉大学真菌学研究所 国立感染症研究所生物活性物質部	亀井 克彦 宮崎 義継
13	市中肺炎とマクロライド	司会：長崎大学大学院医歯薬学総合研究科感染免疫学 State University of New York at Stony Brook	Michael S. Niederman
1)	Role of Macrolides in the CAP Guidelines		
2)	肺炎診療における最新の話題と今後の方向性	大分大学医学部総合内科学第二講座	門田 淳一
14	院内ラウンドの実際とそのポイント	司会：京都大学検査部・感染制御部 自治医科大学感染制御部	一山 智 森澤 雄司
15	遺伝子検査を用いた敗血症診断の臨床的有用性—救急領域において—	司会：近畿大学医学部附属病院救急診療部（ER部） 社会保険中京病院救急科	嶋津 岳士 松嶋 麻子
j	イブニングセミナー		6題
1	成人院内肺炎診療ガイドラインに基づく今後の治療戦略	司会：長崎大学大学院医歯薬学総合研究科感染免疫学講座 東邦大学医学部微生物・感染症学	河野 茂 館田 一博
1)	原因病原体の疫学・特徴と診断法：新しいアプローチを含めて		
2)	成人院内肺炎の現状の課題と今後の治療戦略—ガイドラインは抗菌薬の選択にどのように影響するか—	大阪大学医学部附属病院感染制御部	朝野 和典
2	最近話題の市中呼吸器感染症	司会：東北大学加齢医学研究所抗感染症薬開発研究部門	渡辺 彰

- | | | |
|---|-------------------------------|-------|
| 1) 耐性マイコプラズマの現況 | 札幌医科大学第三内科 | 田中 裕士 |
| 2) 見落としがちな非定型病原 | 川崎医科大学呼吸器内科 | 宮下 修行 |
| 3 総合診療科からみた感染症 | 司会：サクラ精機株式会社 | 青木 眞 |
| 1) ICUでの発熱へのアプローチ | 洛和会音羽病院ICU/CCU, 総合診療科 | 大野 博司 |
| 2) 身体診察を駆使したベッドサイドの感染症診療 | 市立堺病院総合内科 | 藤本 卓司 |
| 4 感染症と急性肺障害 | 司会：北里大学医学部救命救急医学 | 相馬 一玄 |
| 1) 重症肺炎に対する新しい治療戦略—好中球エラスターゼの役割— | 長崎大学医学部附属病院第2内科・検査部 | 柳原 克紀 |
| 2) 敗血症と急性呼吸障害 | 岩手医科大学医学部救急医学講座・岩手県高度救命救急センター | 遠藤 重厚 |
| 5 Health Care-Associated Pneumonia (HCAP) について考える | 司会：奈良県立医科大学感染症センター | 三笠 桂一 |
| 1) HCAPの特徴(原因菌, 病態, 予後など)について: = (CAP+HAP) /2 ? | 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科感染免疫学講座(第二内科) | 関 雅文 |
| 2) HCAPの治療戦略とは—Fake or Real— | 独立行政法人国立病院機構東京病院呼吸器内科 | 寺本 信嗣 |
| 6 深在性真菌症の診断治療—抗真菌薬の特性に基づく治療戦略— | 司会：埼玉医科大学感染症科・感染制御科 | 前崎 繁文 |
| 1) カンジダ症 | 京都大学大学院医学研究科臨床病態検査学・感染制御部 | 高倉 俊二 |
| 2) アスペルギルス症 | 昭和大学医学部臨床感染症学 | 吉田耕一郎 |
| k ICD講習会 | | 1題 |
| Airborne Infection—空気感染・飛沫感染—にどう対応するか? | 座長：横浜市立大学附属病院感染制御部 | 満田 年宏 |
| | 国立感染症研究所感染症情報センター | 森兼 啓太 |
| 1) エアロゾル感染に関する最近の考え方 | 防衛医科大学校内科2(感染症) | 川名 明彦 |
| 2) クシャミ・咳由来のエアロゾルの性質の理解に基づく呼吸器系感染症制御の可能性について | 国立病院機構仙台医療センター臨床研究部ウイルスセンター | 西村 秀一 |
| 3) 空気感染・飛沫感染対策に必要な呼吸器防護具 | 北里大学医学部衛生学・公衆衛生学 | 和田 耕治 |
| 4) Airborne Infection対策における空調管理 | 国立保健医療科学院施設科学部 | 笥 淳夫 |

平成21年10月10日京王プラザホテルにおいて、サテライトセミナー「感染症の診断シリーズ」を主催した。

- | | | |
|---------------------------|----------------------------------|-------|
| 1 細菌検査成績・薬剤感受性検査成績をどう読むか? | 司会：サクラ精機株式会社 | 青木 眞 |
| | 群馬大学医学部保健学科応用検査学 | 佐竹 幸子 |
| 2 身体診察から感染症をどう捉えるか? | 司会：佐賀大学医学部附属病院感染制御部 | 青木 洋介 |
| | 筑波大学附属水戸地域医療教育センター | 徳田 安春 |
| 3 呼吸器感染症の画像診断 | 司会：琉球大学大学院医学研究科感染病態制御学講座分子病態感染症学 | 藤田 次郎 |
| | 埼玉医科大学国際医療センター画像診断科 | 酒井 文和 |
| 4 深在性真菌症の診断update | 司会：埼玉医科大学感染症科・感染制御科 | 前崎 繁文 |
| | 昭和大学医学部臨床感染症学 | 吉田耕一郎 |
| 5 What is beta-glucan? | 司会：埼玉医科大学感染症科・感染制御科 | 前崎 繁文 |

Bio Fact Environmental Health Research Center Ragnar Rylander

3. 雑誌刊行

1) 感染症学雑誌

83巻1号より逐次刊行した。

地方会学術集会プログラムを掲載した。

独立行政法人科学技術振興機構より電子アーカイブ対象誌に選定された。科学技術情報発信・流通システム(J-STAGE)のアーカイブサイトで創刊号より電子化され公開予定。

2) Journal of Infection and Chemotherapy

Vol.15, No.1より逐次刊行した。

Vol.15, No.1よりトムソン・ロイター社のデータベースであるScience Citation Index Expanded及びCurrent Contents/Clinical Medicineに収載されることとなった。

4. 地方会

・第58回東日本地方会学術集会は、平成21年10月30日、31日の両日、岩本愛吉会長のもとで第56回日本化学療法学会東日本支部総会(岩田 敏会長)と合同で東京都・東京ドームホテルで行われた。

特別講演2題、招請講演2題、シンポジウム2題、共催シンポジウム1題、新薬シンポジウム1題、アフタヌーンシンポジウム1題、ベーシックレクチャー2題、ICD講習会1題、教育セミナー15題、市民公開講座1題

一般演題 149題

参加人数 1178名

・第52回中日本地方会学術集会は、平成21年11月27日、28日の両日、鈴木賢二会長のもとで第57回日本化学療法学会西日本支部総会(三嶋廣繁会長)と同時に名古屋市・名古屋国際会議場で行われた。

会長講演2題、特別講演3題、教育講演4題、合同シンポジウム1題、シンポジウム4題、ワークショップ8題、教育セミナー13題、イブニングセミナー4題、ICD・ICP講習会1題、市民公開講座1題

一般演題 153題

参加人数 1054名

・第79回西日本地方会学術集会は、平成21年11月19日、20日の両日、林 純会長のもとで福岡市・九州大

学医学部百年講堂で行われた。

会長講演 1 題、特別講演 2 題、教育講演 4 題、シンポジウム 1 題、ICD講習会 1 題、教育セミナー 1 2 題、

一般演題 1 0 1 題

参加人数 3 5 7 名

5. 院内感染対策講習会

1) 講習場所、期間及び人員

- ①. 院内感染対策に関して、地域において指導的立場を担うことが期待される病院等の従事者を対象とした院内感染対策に関する講習会

日本教育会館一ツ橋ホール	(医 師)	平成21年12月15日、16日	8 3 名
	(看護師)	平成21年12月15日、16日	1 4 1 名
	(薬剤師)	平成21年12月15日、16日	9 3 名
	(臨床検査技師)	平成21年12月15日、16日	9 2 名
神戸国際会議場メインホール	(医 師)	平成21年12月 7日、8日	1 0 1 名
	(看護師)	平成21年12月 7日、8日	1 5 0 名
	(薬剤師)	平成21年12月 7日、8日	1 0 3 名
	(臨床検査技師)	平成21年12月 7日、8日	1 0 0 名

- ②. ①の受講対象となる医療機関と連携し、各医療機関の院内感染対策の推進を図ることを目的とした講習会

東北大学医学部良陵会館	(医 師)	平成22年 1月25日、26日	4 2 名
	(看護師)	平成22年 1月25日、26日	4 0 名
	(薬剤師)	平成22年 1月25日、26日	2 8 名
	(臨床検査技師)	平成22年 1月25日、26日	2 8 名
はまぎんホールヴィアマーレ	(医 師)	平成22年 2月 3日、4日	8 9 名
	(看護師)	平成22年 2月 3日、4日	9 4 名
	(薬剤師)	平成22年 2月 3日、4日	6 4 名
	(臨床検査技師)	平成22年 2月 3日、4日	6 6 名
奈良県文化会館国際ホール	(医 師)	平成21年11月11日、12日	7 6 名
	(看護師)	平成21年11月11日、12日	9 6 名
	(薬剤師)	平成21年11月11日、12日	6 5 名
	(臨床検査技師)	平成21年11月11日、12日	6 7 名
大分県医師会館	(医 師)	平成21年12月10日、11日	4 4 名
	(看護師)	平成21年12月10日、11日	5 0 名
	(薬剤師)	平成21年12月10日、11日	3 3 名
	(臨床検査技師)	平成21年12月10日、11日	3 2 名

- ③. 高度な医療を提供する特定機能病院等の院内感染対策の推進及び近隣医療機関等への指導助言体制の充実を図ることを目的とした講習会

北里大学薬学部コンベンションセンター	(6 5 施設)	平成21年12月10日、11日	1 5 9 名
合 計			1 9 3 6 名

2) 講習内容

1. ①院内感染対策に関して、地域において指導的立場を担うことが期待される病院等の従事者を対象とした院内感染対策に関する講習会、②. ①の受講対象となる医療機関と連携し、各医療機関の院内感染対策の推進を図ることを目的とした講習会

医療機関における感染制御	4 5 分
高齢者介護施設における感染制御	4 5 分
院内・施設内感染関連法令	4 0 分
院内感染関連微生物 (新しい話題の感染症の種類と特徴を含む)	4 5 分
洗浄・消毒・滅菌の基本と実際	4 5 分
抗菌薬の適正使用 (薬剤の選択と投与計画)	4 5 分
新型インフルエンザ対策	4 5 分
呼吸器感染対策	4 5 分
血液媒介感染対策	4 5 分
医療器材関連感染	4 5 分
周術期感染対策	4 5 分
院内感染対策に関連する環境整備	4 5 分
院内感染対策のシステム化	4 5 分
パネルディスカッション	8 0 分

2. ③高度な医療を提供する特定機能病院等の院内感染対策の推進及び近隣医療機関等への指導助言体制の充実を図ることを目的とした講習会

大規模施設における感染対策システムの構築	4 5 分
感染症サーベイランス・微生物モニタリングの実際	4 5 分
院内ラウンドの実際とそのポイント	4 5 分
抗菌薬および消毒薬の使用と管理	4 5 分

院内・施設内感染関連法令	40分
新型インフルエンザ対策	45分
大規模流行を起こす感染症への対応（アウトブレイク対応）	45分
感染対策に関連する環境整備	45分
感染対策教育・研修システムの構築と人材育成	45分
リスクコミュニケーション・メディア対応	45分
感染対策における情報入手と活用法	45分
地域における感染対策ネットワーク構築	45分
感染対策活動事例の紹介	45分
パネルディスカッション	80分

6. 施設内感染対策相談窓口事業

平成21年 3月1日～平成21年 3月31日	質問件数 2件
平成21年 4月1日～平成22年 2月28日	質問件数 29件

7. 感染症専門医

1) 感染症専門医試験合格者 116名

(敬称略)

赤坂 理	荒岡 秀樹	井川 健	池島 進	池田 賢一	池野 義彦	石川 清仁	和泉 透
一宮 朋来	伊藤 亘	井上 考司	井上 純人	井上 卓	岩井 朝幸	岩本 公一	上田 晃弘
上野 史朗	上原 由紀	遠藤 史郎	大宜見 力	太田 求磨	大谷 成人	大塚 岳人	岡本真一郎
小川 栄一	奥山 慎	小澤 雄一	角川 智之	門屋 亮	金井信一郎	神谷 亨	菅野 義彦
木村 宏	黒田 祥二	黒田 文伸	桑原 克弘	古賀 一郎	古賀 丈晴	小嶋 徹	小清水直樹
小林賀奈子	小林孝一郎	小林 義昭	齋藤 昭彦	齋藤美和子	齋藤友季子	佐久間弘子	佐々木重喜
佐々木善浩	笹原 鉄平	佐藤 慎二	澤山 泰典	清水 恒広	小司 久志	末廣 剛敏	鈴木 圭
大畑 雅典	瀧口 恭男	田代 康正	田辺 正樹	谷本 琢也	鄭 湧	塚平 晃弘	築地 淳
津畑千佳子	登坂 直規	長崎 洋司	長島 梧郎	中島由紀子	中野 好夫	中村 匡宏	中村 洋之
中山久仁子	那須 良次	那覇 唯	成田 裕介	新妻 一直	西村 知泰	西村 直子	根井 貴仁
橋本 章司	蓮井 正史	馬場 尚志	原田 壮平	平井 由児	深沢 千絵	福島 篤仁	福地 貴彦
藤田 和恵	藤谷 茂樹	古川 恵一	堀田 裕	本田 章子	前田 卓哉	松島 晶	松永 直久
松本 智成	三浦 聡之	三橋 和則	南 正明	三原 由佳	宮崎 博章	宮崎 洋生	宮田 一平
宮前多佳子	村田 昌之	望月 徹	森 伸生	八木 哲也	安岡 彰	柳 秀高	柳元伸太郎
矢野 修一	山本 善裕	油田 尚総	吉重 幸一				

2) 更新者 112名

3) 指導医 32名

4) 感染症専門医認定研修施設 194施設 (ホームページ参照)

5) 専門医育成経過措置としての連携研修施設	研修に3年を要する施設	28施設 (ホームページ参照)
	研修に4年を要する施設	17施設 (ホームページ参照)

8. ICD制度協議会

新規認定者 144名 更新者 706名

- 緊急提言「一般医療機関における新型インフルエンザについて」を作成 (ホームページ掲載)。
- 提言「新規薬剤を含めた抗インフルエンザ薬の使用適応について」を作成 (ホームページ掲載)。
- 「新型インフルエンザ診療ガイドライン」を作成 (ホームページ掲載)。
- 新型インフルエンザワクチン接種に関する要望書を厚生労働省に提出した。
- 肺炎球菌ワクチン再接種に関する要望書を日本呼吸器学会、日本化学療法学会、日本環境感染学会と連盟で厚生労働省および日本医師会に提出した。
- 「肺炎球菌ワクチン再接種に関するガイドライン」を作成 (ホームページ掲載)。

庶務報告

- 会員数 10,427名 平成22年2月28日現在
- 第83回日本感染症学会総会は平成21年4月23日、京王プラザホテルにおいて行った。
- 平成21年度評議員会は平成21年4月23日、京王プラザホテルにおいて行った。
- 理事会は6回行った。
- 感染症学雑誌編集委員会は6回行った。
Journal of Infection and Chemotherapy編集委員会は11回行った。
- 学会賞選考委員会は1回行った。
- 専門医審議会は1回行った。専門医試験委員会は6回行った。専門医テキスト委員会は2回行った。
- 新型インフルエンザ対策委員会は5回行った。

9. 肺炎球菌ワクチン再接種問題検討委員会は4回行った。
10. 卒前・卒後教育企画WGは3回行った。
11. 利益相反委員会は1回行った。
12. JAID/JSC感染症治療ガイド2010（仮称）作成委員会は3回行った。
13. 四学会理事長懇談会は1回行った。
14. 経理事務打合会は1回行った。

計算書類

平成21年度収支計算書は別表1の通りである。
 正味財産増減計算書は別表2、貸借対照表は別表3の通りである。

第2号議案 運用財産剰余金処分案承認について

平成21年度運用財産剰余金97,170,132円は平成22年度運用財産に繰越すものとする。

第3号議案 財産目録について

財産目録（平成22年2月28日現在）は別表4の通りである。

第4号議案 平成22年度事業計画および収支予算案承認について 事業計画

1. 感染症に対する調査および研究ならびにこれらの援助、今年度の優秀業績の表彰
2. 感染症に関する学術講演の開催
 - ・平成22年4月5日、6日の両日、京都市・国立京都国際会館において、第84回日本感染症学会総会学術講演会（会長・上田孝典）開催予定。
 - ・平成22年10月21日、22日の両日、東京都・京王プラザホテルにおいて、第59回東日本地方会学術集会（会長・岡部信彦）開催予定。
 - ・平成22年11月12日、13日の両日、京都市・京都市ササキパークにおいて、第53回中日本地方会学術集会（会長・一山 智）開催予定。
 - ・平成22年11月19日、20日の両日、松山市・松山市総合コミュニティセンターにおいて、第80回西日本地方会学術集会（会長・安川正貴）開催予定。
3. 感染症に関する学術図書の刊行

感染症学雑誌 刊行回数 隔月A4（6回）	部数：10,900部 頁数約132頁
総会プログラム講演抄録集	部数：11,500部
Journal of Infection and Chemotherapy 刊行回数 隔月A4国際版（6回）	オンラインジャーナル 頁数約74頁

地方会学術集会プログラムを感染症学雑誌に掲載
4. 法人化検討委員会を立ち上げ、平成23年を目処に一般社団法人へ移行する予定。
5. 臨床研究利益相反に関する共通指針（案）を平成23年度から運用する（詳細についてはホームページに公表する）。
6. 専門医制度
 - ・第13回感染症専門医資格認定試験を9月に実施する。
 - ・認定指導医、認定研修施設、「育成経過措置」としての連携研修施設・暫定指導医を募集する。
 - ・指導医講習会を第84回日本感染症学会総会学術講演会、第59回東日本地方会学術集会、第53回中日本地方会学術集会、第80回西日本地方会学術集会に於いて実施する。
 - ・感染症専門医テキスト刊行予定。
7. 卒前、卒後教育企画“症例から学ぶ感染症セミナー”を開催する。
8. ワクチン委員会を設置する。
9. JAID/JSC感染症治療ガイドを日本化学療法学会と合同で刊行予定。
10. 厚生労働省委託事業（一般競争入札予定）
 - ・院内感染対策講習会
 - ・施設内感染対策相談窓口を設置
11. 市販後調査のため希少病のアンケート調査をホームページに掲載する。
12. ICD制度協議会に加盟する（継続）。
13. 三学会合同抗菌薬感受性サーベイランス事業に参加する（継続）。
14. 日本微生物学連盟に加盟する（継続）。

15. 関係学術団体との連絡協議

日本医学会に評議員および連絡員を派遣し、医学発展のために各種問題につき相互に連絡強調する。

収支予算案承認について（別表5）

第5号議案 次期会長承認について

東京慈恵会医科大学感染制御部 小野寺昭一 教授

第6号議案 次々期会長候補者選任について

第7号議案 次々期総会開催地および会期について

第8号議案 名誉会員および功労会員承認について

名誉会員推薦：大西 克成 先生 齋藤 厚 先生 那須 勝 先生

その他

平成21年度新任評議員

1. 山崎 善隆 (長野県立須坂病院感染症科)
2. 白井 亮 (大分大学医学部感染分子病態制御講座)
3. 村谷 哲郎 (株式会社キューリン)
4. 武岡 宏明 (九州大学病院総合診療部)
5. 田村 和夫 (福岡大学医学部第一内科)
6. 菊池 清 (島根県立中央病院小児科)
7. 井上 祐一 (健康保険諫早総合病院)
8. 毛利 圭二 (川崎医科大学附属病院呼吸器内科)
9. 狩山 玲子 (岡山大学大学院医歯薬学総合研究科泌尿器病態学)
10. 清水 利朗 (島根大学医学部微生物・免疫学講座)
11. 内山 和久 (和歌山県立医科大学第二外科)
12. 小池 竜司 (東京医科歯科大学大学院総合研究科薬害監視学講座)
13. 渡邊 哲 (千葉大学医学部附属病院感染症管理治療部)
14. 森 雅亮 (横浜市立大学附属市民総合医療センター小児科)
15. 飯島 義雄 (神戸環境保健研究所微生物部)
16. 吉嶺 裕之 (井上病院)
17. 古本 朗嗣 (長崎大学病院感染症内科(熱研内科))
18. 中尾 歩 (川崎市立川崎病院小児科)
19. 谷口 清州 (国立感染症研究所感染症情報センター)
20. 早川 智 (日本大学医学部病態病理学系微生物学分野)
21. 堀野 哲也 (東京慈恵会医科大学感染制御部)
22. 宮本比呂志 (佐賀大学医学部病因病態科学講座微生物学・寄生虫学分野)
23. 猪狩 英俊 (千葉大学医学部附属病院感染症管理治療部)
24. 大串 文隆 (独立行政法人国立病院機構高知病院)
25. 田口 晴彦 (杏林大学保健学部免疫学研究室)
26. 宮脇 裕史 (香川県立中央病院呼吸器内科)
27. 南 正明 (名古屋市立大学大学院医学研究科細菌学)
28. 子川 和宏 (防衛医科大学校小児科)
29. 八木 哲也 (名古屋大学医学部附属病院中央感染制御部)

平成21年度
物故会員

1. 瀬戸 茂雄 先生 (正会員) (2009年 6月 2日)
2. 平山 久子 先生 (正会員) (2009年 6月 日)
3. 大越 正秋 先生 (名 誉) (2009年 7月31日)
4. 石坂 彰敏 先生 (評議員) (2009年 9月20日)
5. 古屋 亮兒 先生 (正会員) (2009年10月 8日)
6. 中島 幹夫 先生 (正会員) (2009年10月 9日)
7. 武内 安恵 先生 (評議員) (2009年11月 8日)
8. 大貫 寿衛 先生 (正会員) (2009年12月27日)
8. 中村 明 先生 (正会員) (2010年 1月21日)
9. 木村三生夫 先生 (功 勞) (2010年 2月22日)
10. 山田 治男 先生 (正会員) (2010年 2月25日)